

京安全通信 ～安全な学校生活を目指して～



令和 6年1月

其の七「令和6年能登半島地震」について
～発災から長期的な支援へ～

京都市教育委員会事務局 体育健康教育室
京都市立中学校教育研究会 安全教育部会

令和6年1月1日16時10分頃、石川県能登地方の地震により、最大震度7（M7.6 深さ15km）を観測するなど能登半島を中心に強い揺れを観測しました。京都でも長岡京市で震度4を観測するなど、大変大きな地震でした。石川県を中心に多くの家屋が倒壊したり、火災が発生したりするなどして、多くの被害が発生しています。被災された方々は今なお、避難生活を送っている状況です。



石川県能登地方では、平成30年頃から地震回数が増加傾向で、令和2年12月から地震活動が活発になり、令和5年5月頃からさらに活発となったあと、いったんは令和2年12月以降の状態に戻りました。しかし、今回の地震により、地震活動の更なる活発化とともに地震の発生領域も広がり、今後も警戒が必要な状況です。

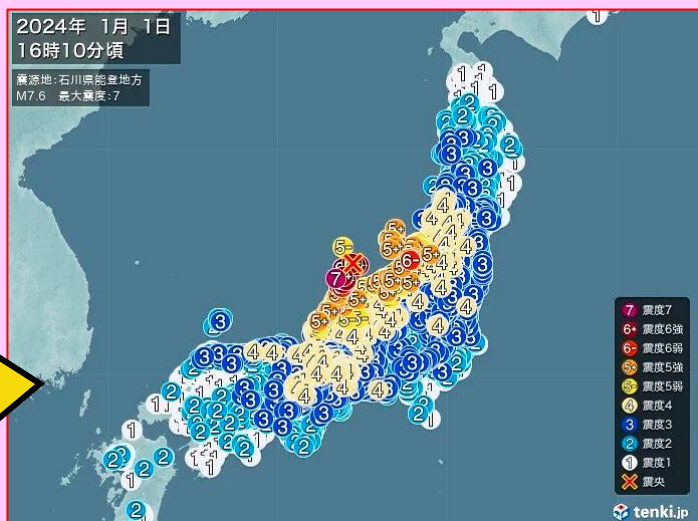


「令和6年能登半島地震発災当初の状況」

令和6年1月1日16時10分頃 発災 最大震度7を観測 石川県能登地方 震源の深さ約15km M7.6（暫定値）

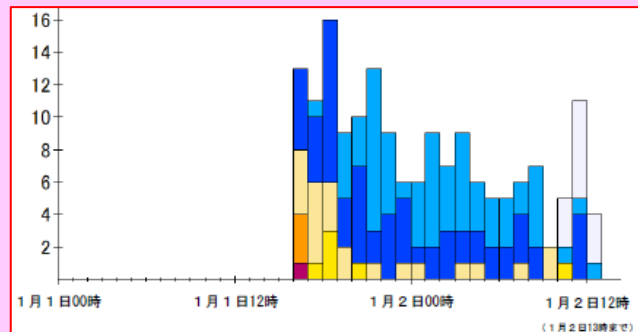
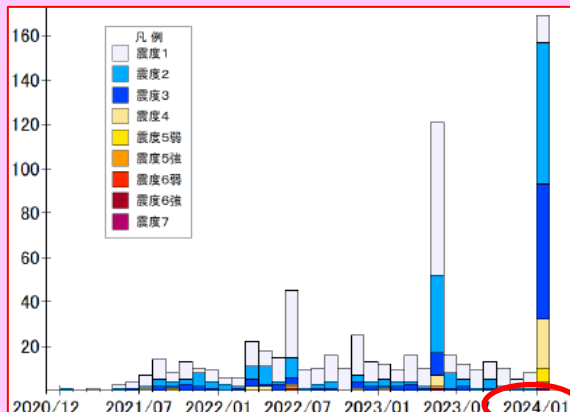
この地震により石川県羽咋郡（はくいぐん）志賀町（しかまち）で最大震度7を観測したほか、能登地方の広い範囲で震度6弱以上の揺れを観測するなど、被害を伴った。現在も活発な地震活動が続いている。

**石川県で
震度7を観測**
京都府長岡京市で
震度4を観測



地震活動活発化

1月1日以降の地震活動は、北東—南西に延びる15km程度の範囲に広がっており、1日16時から2日13時までの間に、最大震度1以上を観測した地震が169回（震度7：1回、震度5強：3回、震度5弱：6回）発生した。



※ 参考：地震調査研究推進本部 地震調査委員会「令和6年能登半島地震の評価」（令和6年1月2日）



日本海側の広範囲で大津波警報・津波警報・津波注意報を発令

大津波警報・津波警報・津波注意報発令

日本海側の広範囲にわたって大津波警報・津波警報・津波注意報が発令されました。



高台に避難
してください



石川県で
大津波警報を発表

津波の観測状況(主な観測点の観測値)

観測点名	該当予報区名	第一波到達時刻	これまでの最大波	高さ
輪島港	石川県能登	1日16:10	1日16:21	1.2m以上
金沢	石川県加賀	—	1日19:09	0.9m
酒田	山形県	1日17:12	1日19:08	0.8m
富山	富山県	1日16:13	1日16:35	0.8m
瀬棚港	北海道日本海沿岸南部	1日17:54	1日18:26	0.6m
境港市境	鳥取県	1日18:14	1日22:30	0.6m

※ 参考: 気象庁「令和6年能登半島地震」について(第5報) <令和6年 1月2日 報道発表>



「支援」私たちが「今」できることを考えよう

毎日の報道を確認すると、日々刻々と被害の状況が明らかになってきています。発災から一週間余りが経過した現在、被害の全貌がようやく見えようとしています。被災された方々は、今なお避難を余儀なくされ、継続的な支援が必要な状況です。各地から自衛隊や消防、ボランティア等の支援が続けられておりますが、まだまだ支援の手が必要な状況です。そんな今、自分たちにできることはないでしょうか？

中学生として、被災地支援「何」ができるか？を考えることが大切です。そのためには、被災された方の気持ちに寄り添うことが重要です。「支援」は時間が経つにつれてニーズが変化します。被災地の状況を常に把握(理解)しながら、自分のできることを考えてみましょう。

参考にしよう 保健の教科書「共に生きる」(P.74~75)

○心のケア ○避難所生活とボランティア ○地域のきずな(自助、共助)

○読み物資料「中学生が深めた地域のきずな」

・災害発生時の避難経路を中学生と高齢者が一緒に確認する。

・自宅の災害対策などを聞き取る。

・昭和南海地震(1946年発生)のときの体験談を聞かせてもらう。

助け合い
支え合い

支援のヒントが
載っています!

きずな



中学生と高齢者のコミュニケーションが深まり、地域のきずながたしかなものに!

※ 参考: 政府広報オンライン「被災地を応援したい方へ 災害ボランティア活動の始め方」